

写

平成17年度岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会

答 申

平成18年3月

目 次

はじめに	1
「平成14年度入学者選抜改善の検証」及び「平成19年度の高等学校入学者選抜制度の改善方策」について	2
1 「特色化選抜」の評価について	2
2 「特色化選抜」の募集人員の割合について	4
3 学区のあり方について	4
4 進路指導・進路選択について	5
アンケート等による調査結果について	6
(資料1) 公立高等学校入学者選抜に関するアンケート質問事項及び調査結果	19
(資料2) 平成17年度岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会委員名簿	28

平成18年 3月22日

岐阜県教育委員会

教育長 鬼頭 善徳 様

岐阜県立高等学校入学者

選抜に関する諮問会

会長 古田 善伯

答 申

岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会（以下「入試諮問会」という。）は、平成17年9月13日に貴職から

- 1．平成14年度入学者選抜改善（特色化選抜の導入等）の検証について
- 2．現在の入学者選抜制度に基づいた平成19年度の高等学校入学者選抜制度の改善について

の諮問を受け、審議した結果、以下のとおり成案を得たので答申します。

はじめに

岐阜県では、「生徒一人ひとりの様々な優れた面を積極的に評価する」「生徒の学校選択幅を拡大する」「各高等学校が自校や学科等の特色に沿った選抜方法を工夫する」の3つの改善の基本的方向に基づき、平成14年度入学者選抜から、「特色化選抜」と「一般選抜」を柱とする新しい入学者選抜制度を導入した。

本入試諮問会においては、現行の入学者選抜制度が昨年度末をもって4回目の実施となったとともに、この制度によって入学した生徒が初めて卒業したことを踏まえた上で、現在の入学者選抜制度を検証するとともに、平成19年度の制度の改善について検討をする際の参考となるよう審議を重ねてきた。

その際、平成17年3月に高校を受験したばかりの高校1年生及びその保護者、公立中学校長及び公立高等学校長を対象としたアンケートの結果及び平成14年度入学生の実態調査の結果を検討資料とした。

なお、これらの答申の具体化にあたっては、受験生及びその保護者、中学校及び高等学校に対して、十分に事前の説明をすることが必要である。

「平成14年度入学者選抜改善の検証」及び「平成19年度の高等学校入学者選抜制度の改善方策」について

入試諮問会における審議は、先に実施した「公立高等学校入学者選抜に関するアンケート」の調査結果に基づいた検証結果を踏まえ、平成19年度入学者選抜における改善方策について検討した。

1 「特色化選抜」の評価について

(1) 検証結果

ア 「特色化選抜」について、高校1年生の53%が「よい」、24%が「どちらともいえない」と回答しているのに対して、「あまりよくない」との回答は23%にとどまった。

「特色化選抜」の合否結果別にみた場合、「特色化選抜」で合格した者の72%、「特色化選抜」は不合格で同一校の「一般選抜」で合格した者の45%、「特色化選抜」は不合格で他校の「一般選抜」で合格した者の53%が「よい」と回答している。

一方、高校1年生の保護者の42%、中学校長の54%が「特色化選抜」について「あまりよくない」と回答している。

また、高等学校の学科別でみた場合、特に専門学科・総合学科においては、「よい」の比率が全調査対象者とも高くなっている。

このように「特色化選抜」についての評価は高校1年生と保護者及び中学校長との間で回答の結果が異なった。

イ 「よい」と回答した理由としては、全調査対象者とも、現行の入試制度導入の目的の一つである「受験機会の複数化」について高く評価している。

一方、「あまりよくない」と回答した主な理由としては、全調査対象者とも「評価基準の不明確さ」「普通科高校における『特色』の意味のわかりにくさ」をあげている。

ウ 「特色化選抜」の評価の観点については、高校1年生及びその保護者、高等学校長とも、中学校の学習成績をはじめとして、中学校における3年間の生活を幅広く評価してほしい又は評価したいと考えている。

「特色化選抜」の選抜方法のうち学校独自問題を受験した高校1年生からは、事前にどのような学習をすればよいのかわからず、具体的な対策をたてることができなかった、もしくは学習塾の特別講座等を利用したとの回答や、受験後に実際にできたかどうかの確証が得られなかったという回答が多くみられた。

また、中学校長からは、特に普通科高校について、評価基準の不明確さや学校独自問題への対応に伴う生徒の負担増加を指摘する意見も出された。

エ 高校入学後の状況について、各高等学校長からは、「特色化選抜」導入後、目的意識が高く、主体的・意欲的な生徒が増加した結果、部活動や学校行事も含め学校全体が活性化したとの意見が出されたほか、学習や部活動の参加状況又は成果の面で、比較的高い評価を得ているという傾向がみられた。

(2) 平成19年度入学者選抜における改善方策

ア 「特色化選抜」は、各高校がそれぞれの特色を踏まえた教育方針や教育内容などを明らかにするとともに、生徒自らがそれらを把握し出願する高校を選択するものである。

また、「特色化選抜」は、学校独自問題だけではなく、面接、小論文、実技検査、自己表現などの多様な選抜方法を、各高校が様々に組み合わせて実施することにより、生徒一人ひとりの学ぶ意欲や優れた面、努力の成果、活動の実績などを多面的に評価するものである。

イ 「特色化選抜」については、受験の主体者であった高校1年生の半数以上が「よい」と評価し、全調査対象者が「受験機会の複数化」を高く評価していることから、受験生が「特色化選抜」と「一般選抜」と合わせて2回受験できる現在の制度は維持する。

ウ 普通科高校における「評価基準の不明確さ」を指摘する声が多いことから、より分かりやすい情報を提供するため、たとえば次のような改善を図る必要がある。

- 各高校は、教育方針、教育課程や指導方法の特色を明確にし他校との違いを一層アピールすること

各高校は、入学者選抜において重視する評価の観点を一層明確にすること

- 評価する観点別に募集人員を分割し選抜することができるようにすること

- 「一般選抜」の学力検査の得点と同様に学校独自問題の得点についても、受験者本人の請求による情報提供の対象とすること

エ 学校独自問題は、中学校で学習する内容の基礎的・基本的事項の理解度をはじめ、発展的に考える力や表現する力を評価する等の観点から出題されるものである。

しかし、実際に生徒は、事前にどのような学習をすればよいのかわからないため具体的な対策をたてることができず、中学校における学習内容だけでは対応できないのではないかという不安から、学習塾に依存しているという課題がみられた。

このため、この学校独自問題については、各高校ごとに出題するのではなく、県内統一の問題で実施することが望ましい。

2 「特色化選抜」の募集人員の割合について

(1) 検証結果

「特色化選抜」の募集人員の割合については、高校受験の主体者であった高校1年生とその保護者においては、「現行どおり」との回答が最も多い。一方、中学校長及び高等学校長は「募集人員の割合の増加」の回答が多く、回答の結果が異なった。なお、「募集人員の割合の増加」との回答が多かった中学校長においても、「評価基準の明確化」等条件整備の上で、特に普通科等について募集人員の上限の緩和を希望する回答が多かった。

(2) 平成19年度入学者選抜における改善方策

「特色化選抜」の募集人員の割合については、高校1年生及びその保護者では、「現行どおり」とする意見が最も多いことから、普通科等については、当該学科の入学定員の10～20%、専門学科・総合学科については、当該学科の入学定員の10～50%という募集人員の割合は変更しない。

3 学区のあり方について

(1) 検証結果

学区については、今回のアンケート結果では調査対象者や地域によって回答の傾向が様々であり、一定の方向性を捉えることは困難である。ただし「一般選抜」における学区に限定した場合、現在の6学区を維持したいとする回答が中学校長及び高等学校長ともに半数以上を占めたほか、高校1年生及びその保護者においては、「学区については現状維持でよい」とする回答が半数前後を占めるなど、全体的に「一般選抜」の学区については現状維持とする傾向が強かった。

ただし、一部地域においては、学区の緩和を望む意見もあった。

(2) 平成19年度入学者選抜における改善方策

ア 今回のアンケート結果からは、一定の方向性を捉えることは困難であり、また、特に「一般選抜」において現在の6学区を維持してほしいとの回答が多いことから、現時点では制度の変更はしない。

イ ただし、平成19年度に実施する高校の統合により、居住地域からの通学事情が大きく変化する一部地域については、調整区域の設置等により対応する必要がある。

なお、今後、県内の交通事情の変化や市町村合併の進捗状況等も鑑み、さらに広範囲からの意見を聴取するなど、継続して検討する必要がある。

4 進路指導・進路選択について

(1) 検証結果

- ア 「特色化選抜」において出願する高校を選択する場合、生徒は自分の「行きたい学校」の特色を重んじる一方で、「一般選抜」においては合否の可能性をより重視している。保護者についてはどちらの選抜方法においても合否の可能性を第一に考えている。
- イ 生徒が出願する高校を選択する場合の相談相手としては、中学校の先生や保護者を第一と考えているが、学習塾の影響も少なからずあり、特に普通科高校への出願を検討する場合には、学習塾に依存する傾向がある。

(2) 平成19年度入学者選抜における改善方策

高校の特色や入学者選抜方法について、生徒や保護者が十分な情報を得て進路選択できるよう、中学校及び高等学校双方に関して、たとえば以下のような充実を図る必要がある。

また、中学校における進路指導については、県教育委員会が現状を改めて検証し、生徒及びその保護者のニーズに応えたものとなるように、より客観的な資料の利用など具体的な改善方策について検討する必要がある。

< 中学校及び高等学校の連携 >

中学校と高校は、両者の教育方針、教育内容、進路指導のあり方等について理解し今後の進路指導に資するために、連携して相互の情報交換に努めること

< 高等学校 >

- 生徒の日常生活や学校行事、部活動の記録、進路状況など、中学生の学校選択のより具体的な情報源として、自校のホームページの内容の一層の充実を図ること
- 体験入学における模擬授業や実習体験など、中学生が高校生活を実体験できる場の一層の充実を図ること
- 各学科の内容や大学等への進学、資格取得、就職のための取り組みなど、より具体的な情報を提供すること
- 映像や音声等を活用したより効果的な情報提供の方法についても検討すること

< 中学校 >

各高校の教育方針、教育課程上の特色、選抜方法や内容、卒業後の進路状況等を十分理解し、生徒及び保護者に対してよりの確な情報を、より早期から十分に提供することにより、進路指導の一層の充実を図ること

アンケート等による調査結果について

「公立高等学校入学者選抜に関するアンケート」について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

現在の入試制度について、高校1年生及びその保護者、公立中学校長及び公立高等学校長を対象にアンケート調査を実施し、現在の入試制度導入の目的の達成状況を把握するとともに、導入後の状況等を総合的に検証し、今後の改善方策の検討の基礎資料とする。

(2) 調査対象 3,680人

アンケートは、直近の平成17年度入学者選抜において受験生であった、現在の高校1年生(「特色化」合格者・「一般」合格者)及びその保護者のほか、県内全公立中学校長、全公立高等学校長を調査対象としており、自らの経験を踏まえた意見を中心に公平かつ具体的な意見の聴取に努めた。なお、中学3年生及びその保護者については、入試直前の時期ということもあり、不要な混乱を避けるために調査対象としていない。

ア 高校1年生・・・普通科(12校) 専門学科及び総合学科(5校)の各2学級の在籍生徒全員(1,322人)

学校独自問題について

普通科(20校)の1学級の在籍生徒全員(781人)

イ 保護者・・・アの生徒の保護者(1,318人)

ウ 中学校・・・全公立中学校長(193人)

エ 高等学校・・・全公立高等学校長(66人)

(3) 調査方法 調査対象校を通して実施

(4) 調査時期 公立高等学校長：平成17年5月

公立中学校長・高校1年生及びその保護者：平成17年11月

高校1年生(学校独自問題について)：平成18年3月

(5) 回収結果 3,583件

	配付数	回収数	回収率
高校1年生	1,322	1,317	99.6%
高校1年生(学校独自問題について)	781	781	100%
高校1年生の保護者	1,318	1,226	93.0%
公立中学校長	193	193	100%
公立高等学校長	66	66	100%
計	3,680	3,583	97.4%

○ 平成14年度入学生に関する調査について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

現在の入試制度によって入学した生徒の高校入学後の状況及び高校卒業後の進路状況を把握し検証することにより、今後の改善方策の検討の基礎資料とする。

(2) 調査対象 2,637人(平成17年3月卒業生)

調査研究協力校(普通科6校・専門学科2校・総合学科1校)の平成14年度入学生

(3) 調査方法 調査対象校を通して実施

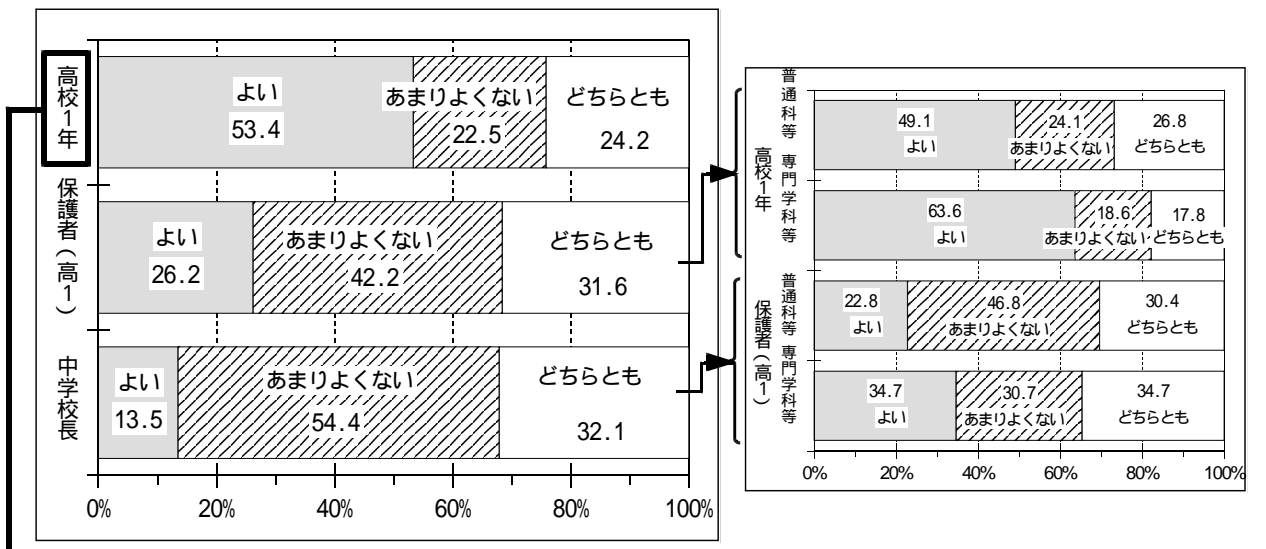
(4) 調査時期 平成16年11月～平成17年5月

(1) 「特色化選抜」についてどのように思うか

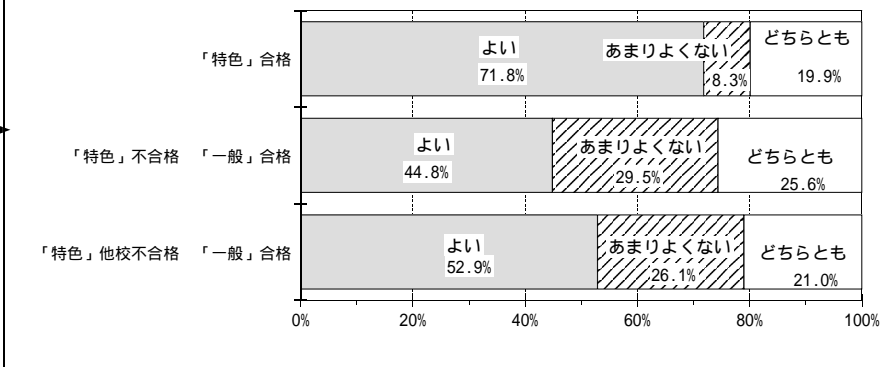
(調査結果の概要と分析)

「特色化選抜」については、その評価が、実際に受験を体験した高校1年生と保護者及び中学校長との間で大きく分かれた。高校1年生の53.4%（普通科等49.1%・専門学科等63.6%）が「よい」と回答しているのに対して、保護者では26.2%（普通科等22.8%・専門学科等34.7%）が、中学校長では13.5%が、「よい」と回答しているにとどまっている。反対に、保護者の42.2%（普通科等46.8%・専門学科等30.7%）が、中学校長の54.4%が「あまりよくない」と回答している。<(図1)参照>

(図1)「特色化選抜」についてどのように思うか<アンケート結果より>



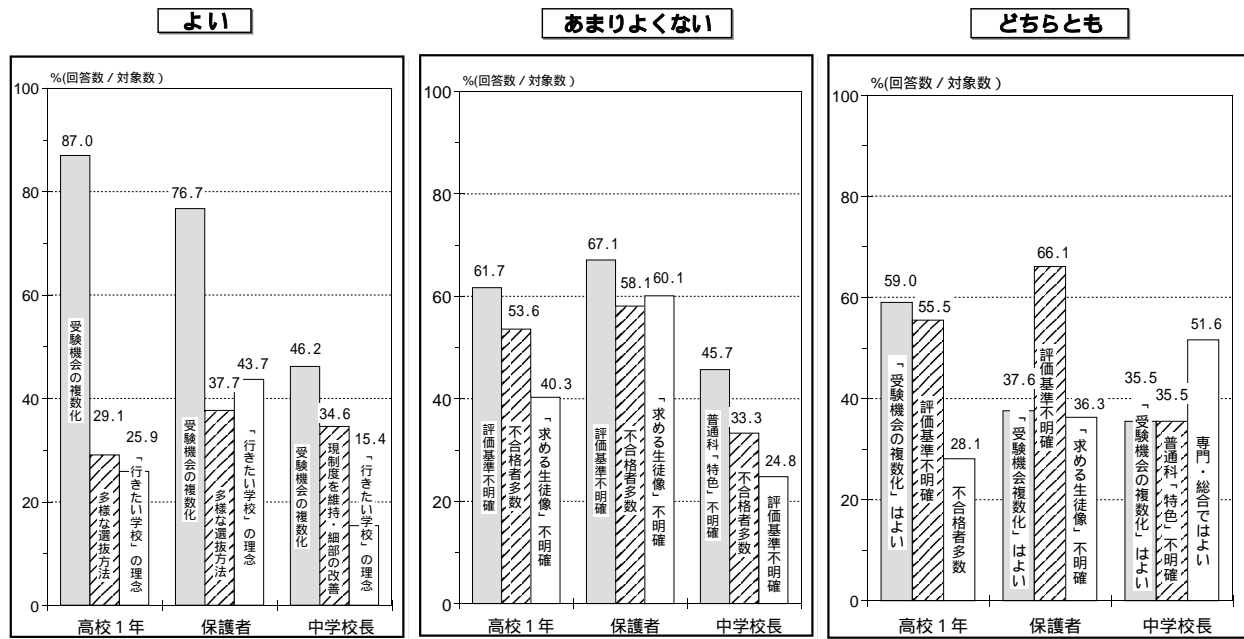
(図2)「特色化選抜」についてどのように思うか(高校1年生)
 <「特色化選抜」結果別状況 アンケート結果より>



「特色化選抜」の合格結果別でみた場合、「よい」と回答した割合は、「特色化選抜」で合格し入学した生徒の71.8%、「特色化選抜」を受験し、その後「一般選抜」で合格し入学した生徒の44.8%、他校で「特色化選抜」を受験し、その後調査対象校の「一般選抜」で合格し入学した生徒の52.9%であった。<(図2)参照>

回答を理由別にみると、「よい」と回答をした理由として、全対象者が「受験機会の複数化」を最も多くあげており、特に高校1年生では87.0%、保護者では76.7%が理由としてあげている。また、「どちらともいえない」と回答をした理由としても、「受験機会の複数化はよい」が全体的に高ポイントとなっている。

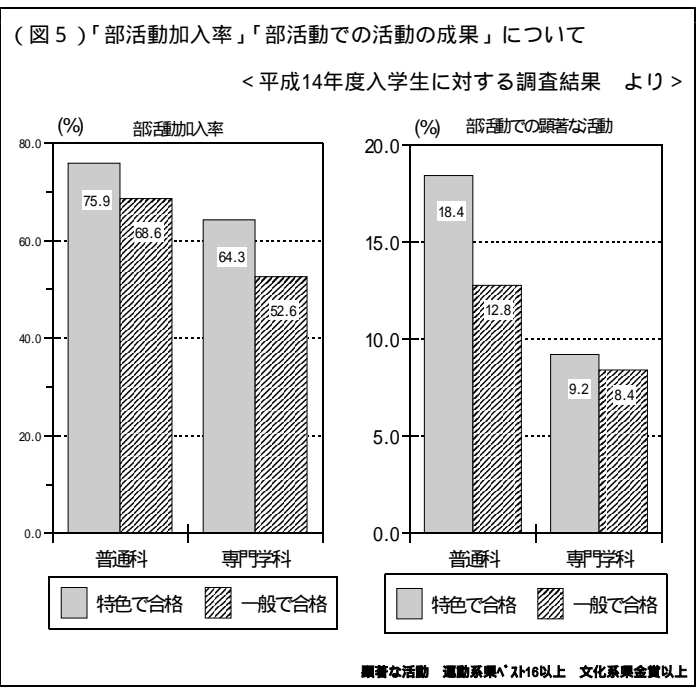
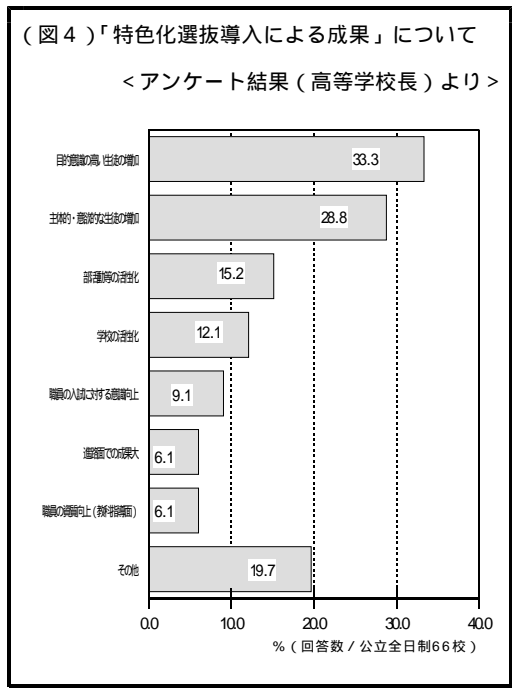
(図3) 回答した理由について < アンケート結果より >



一方、「あまりよくない」と回答をした理由としては、高校1年生の61.7%及び保護者の67.1%が「評価基準が不明確」、中学校長の45.7%が「普通科高校の『特色』が不明確」をあげている。また、「どちらともいえない」と回答をした理由のうち、中学校長の35.5%が「普通科高校の『特色』が不明確」としている一方、高校1年生の55.5%及び保護者の66.1%が「評価基準が不明確」としている。 < (図3) 参照 >

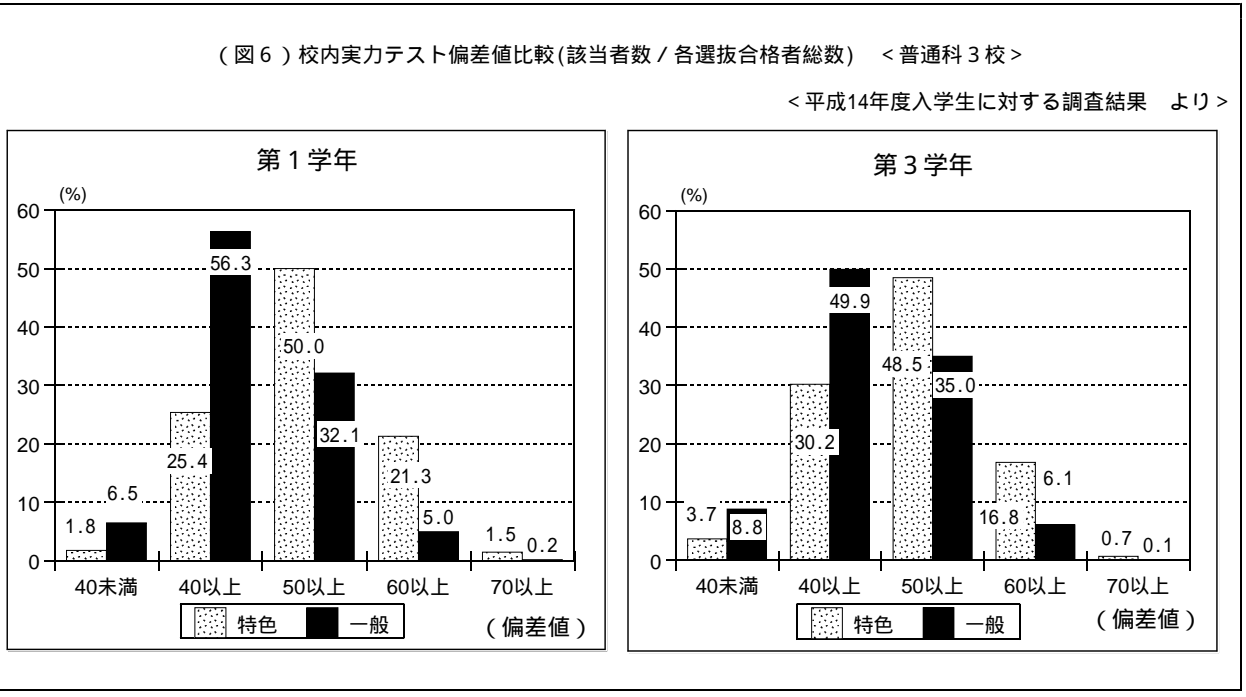
また、高等学校長へのアンケートでは、「特色化選抜導入による成果」について、「目的意識の高い生徒の増加」33.3%、「主体的・意欲的な生徒の増加」28.8%、「部活動等の活性化」15.2%、「学校の活性化」12.1%と目的意識が高く、主体的・意欲的な生徒が増加した結果、部活動や学校行事も含め学校生活が活性化したとの意見が多く出された。 < (図4) 参照 >

本年度実施した、県立高校普通科6校、専門学科2校及び総合学科1校の平成14年度入学生を対象に実施した調査結果によると、特色化選抜で合格し入学した生徒は、「一般選抜」で合格し入学した生徒に比べて、部活動の加入率が比較的高く、また、その活動の成果についても顕著な結果が表れている。 < (図5) 参照 >



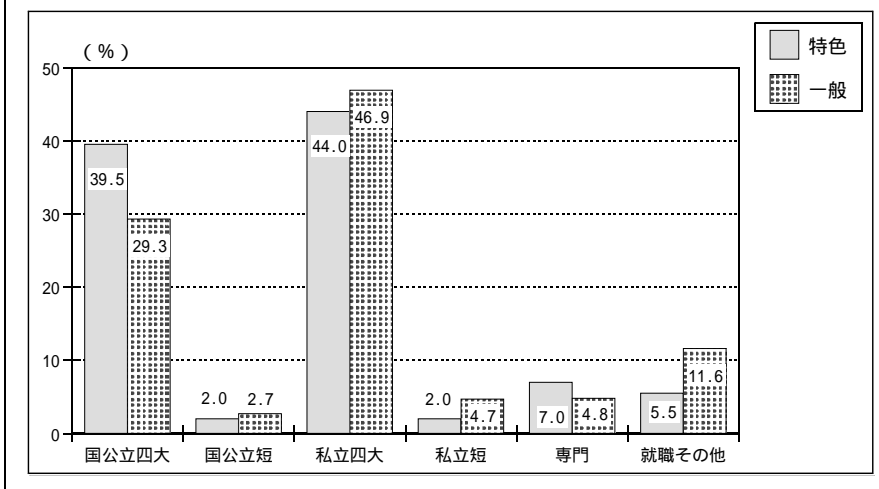
また、学習状況について、特に校内実力テストの第1学年及び第3学年の偏差値(普通科高校抽出)を比較した場合、第1学年・第3学年とも偏差値60以上における特色化選抜合格者の占める割合は比較的高い。 <(図6)参照>

卒業後の進路状況についても、国公立大学(4年制)においては、「特色化選抜」の合格者の割合が「一般選抜」の合格者に比して高くなってはいるが、私立大学(4年制)では「一般選抜」の合格者、専門学校では「特色化選抜」の合格者の割合が高くなっている。 <(図7)参照>



(図7) 卒業後の進路決定先(該当者数/各選抜合格者総数) <普通科3校>

<平成14年度入学生に対する調査結果 より>



平成14年の「特色化選抜」導入前後の公立高等学校(全日制)における中途退学者の割合をみると、「特色化選抜」導入直前の平成13年度の1.7%から、直後の平成14年度には1.3%に減少している。

(参考)「入試改善」前後の中途退学者の割合 <全国平均: 1.9%(平成14年度)>

<岐阜県公立高校(全日制課程)の平均>

平成13年度 1.7% **特色化選抜導入** 平成14年度 1.3%

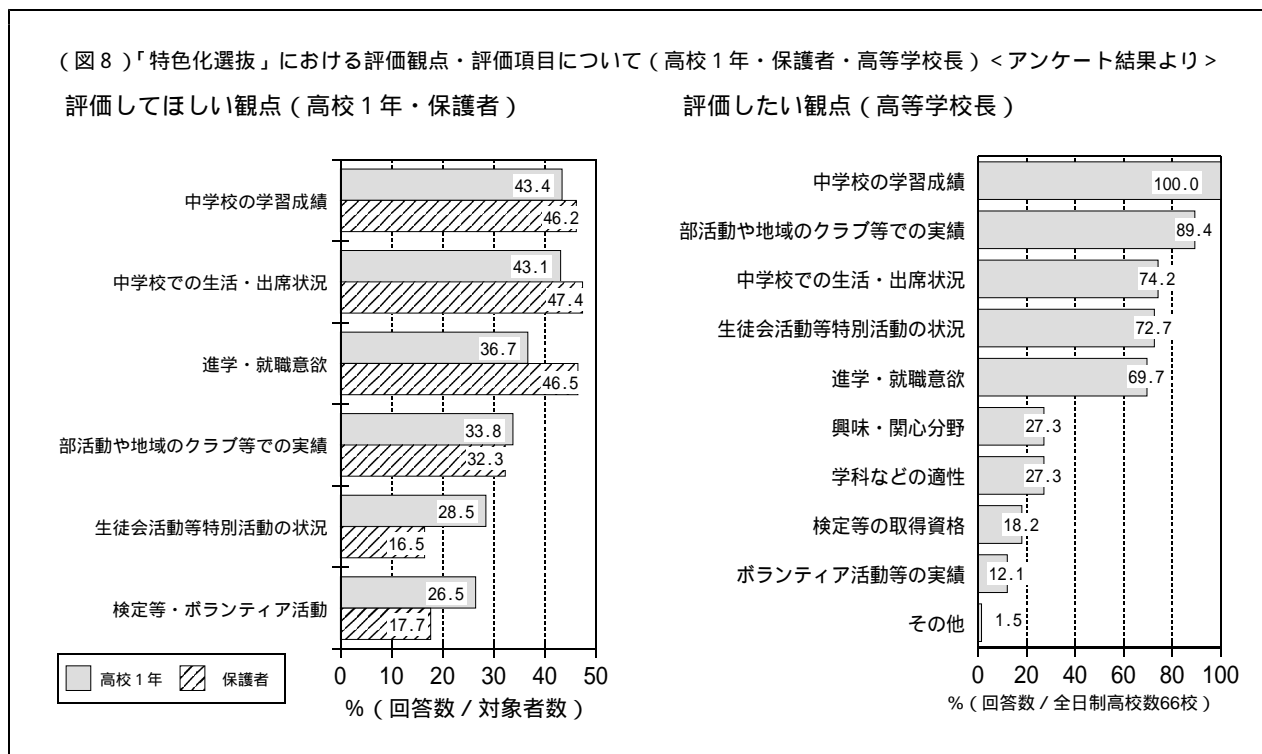
(2) 「特色化選抜」の評価観点・評価項目についてどのように思うか

(調査結果の概要と分析)

高校1年生及びその保護者が「特色化選抜」において評価してほしい観点としては、「中学校の学習成績」「中学校での生活や出席状況」「将来の進学や就職に対する意欲」が上位を占めた。

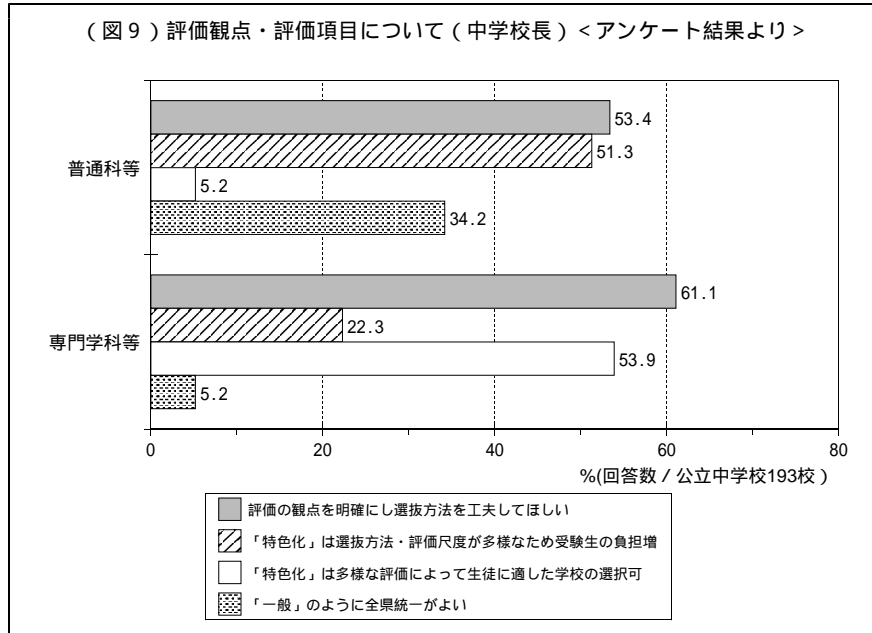
また、「中学校での部活動や地域のクラブ活動」「中学校での生徒会活動等特別活動」「検定等の資格取得やボランティア活動」「興味関心のある分野」等についても、特に高校1年生において、評価をしてほしいとする回答が多く、中学校での学習成績をはじめ、中学校3年間の生活を幅広く評価してほしいとの傾向がみられた。

高等学校側が「特色化選抜」において評価したい観点としては、「中学校の学習成績」をはじめとして、以下、「中学校の部活動や地域のクラブ等での実績」「中学校での生活や出席の状況」「将来の進学や就職についての意欲」「中学校の生徒会活動などの特別活動の状況」等がほぼ同率で、高等学校においても、高校1年生及び保護者と同様に、中学校での学習成績をはじめ、中学校3年間の生活を幅広く評価したいと考えている。 <(図8)参照>



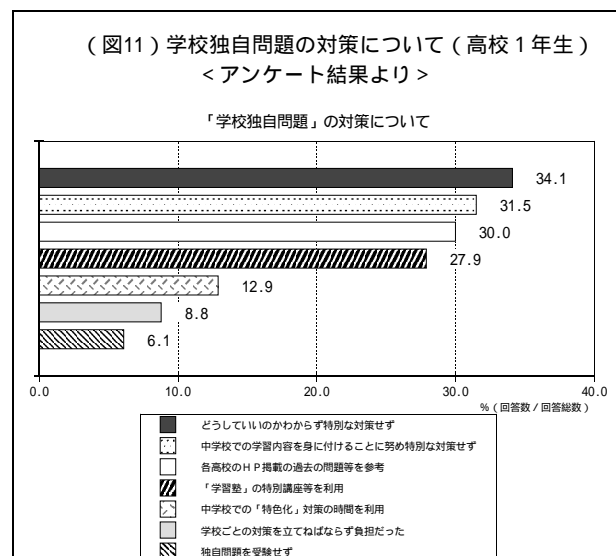
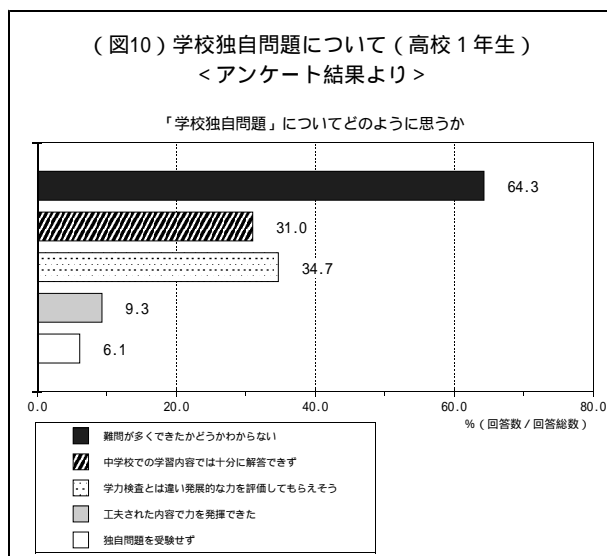
一方、中学校長では、「普通科・理数科・英語科」の高校については、「評価する観点をさらに明確に示し、それぞれに適した選抜方法を一層工夫してほしい」との回答が53.4%で「評価基準の明確化」を求める意見が最も多く、次いで、「特に『特色化選抜』では、高校によって選抜方法や評価尺度が違うので受験生の負担が大きくなった」の51.3%や、「『一般選抜』のように全県統一問題がよい」の34.2%など、多様な選抜方法の対応に伴う生徒の負担増加を指摘する回答も多くあった。

「専門学科・総合学科」の高校については、普通科等と同様に「評価する観点をさらに明確に示し、それぞれに適した選抜方法を一層工夫してほしい」との回答が61.1%と最も多いものの、「『特色化選抜』では、学校によって選抜方法に特色があり、いろいろな面から評価されるため、生徒それぞれに適した学校を選ぶことができる」と「特色化選抜」の選抜方法や多面的評価を評価するとの回答も53.9%であった。<(図9)参照>



「学校独自問題」については、高校1年生の64.3%が「難しい問題が多くできたかどうか分からない」、31.0%が「中学校の学習内容では十分に回答できない」と回答する一方で、34.7%が「学力検査とは違う力を評価してもらえそう」と回答している。<(図10)参照>

また、「学校独自問題」の対策については、34.1%が「どうしていいのかわからず特別な対策はしない」、31.5%が「中学校での学習内容を身につけることに努め特別な対策はしない」と回答しているとともに、27.9%が「学習塾の特別講座を利用した」と回答している。<(図11)参照>



(3) 「特色化選抜」の募集人員の割合についてどのように思うか

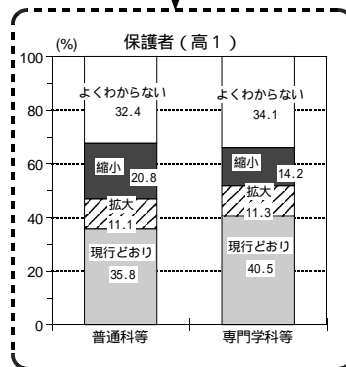
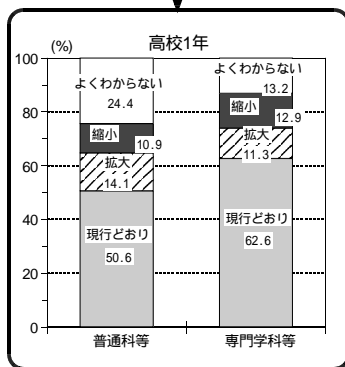
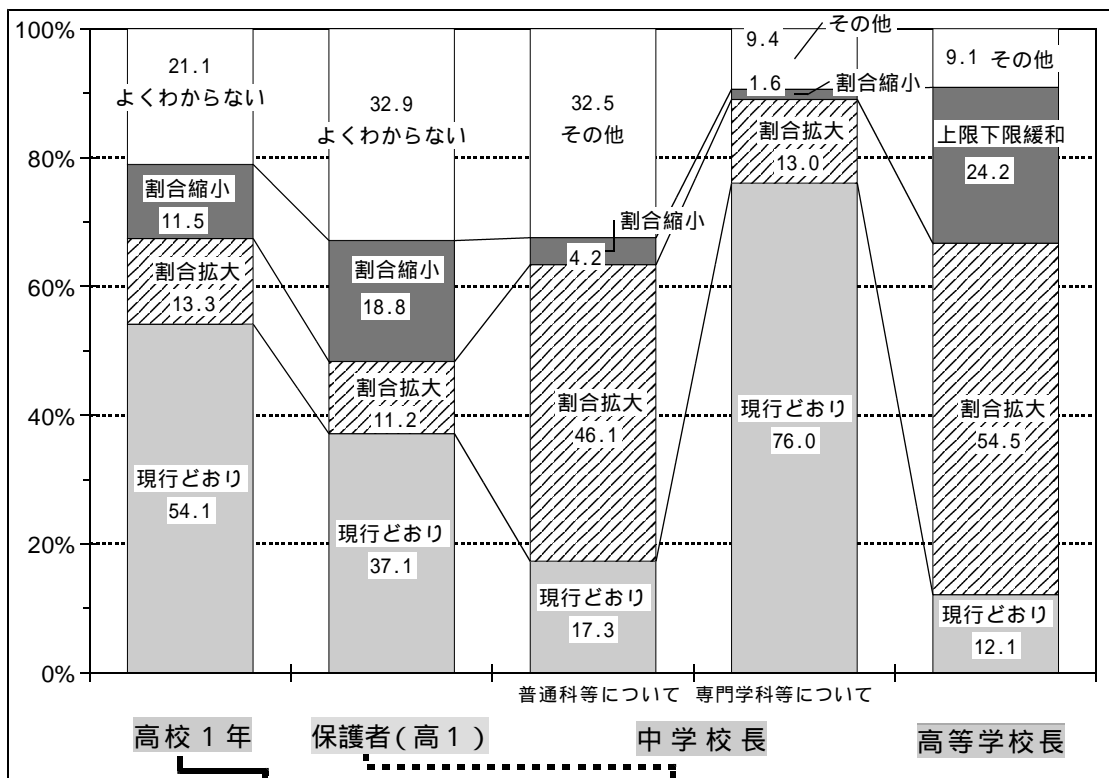
(調査結果の概要と分析)

「特色化選抜」の募集人員の割合については、高校1年生及びその保護者と中学校長及び高等学校長とにおいて回答の傾向が異なるものになった。 高校1年生及び保護者では「今のままでよい」との回答が最も多い(高校1年生54.1%・保護者37.1%)のに対して、中学校長及び高等学校長においては「募集人員割合の拡大」との回答が最も多かった(中学校長<普通科等について>46.1%・高等学校長54.5%)。

ただし、中学校長の「募集人員の拡大」への回答の理由には「判定基準等条件整備の上での拡大を望む」との意見もあり、募集人員の増加よりも先に、「判定基準の明確化」を重視する傾向にある。

また、高校1年生の11.5%、保護者の18.8%が「募集人員の割合の縮小」と回答しており、保護者では「募集人員の割合の拡大」の11.2%よりも高ポイントであった。 <(図12)参照>

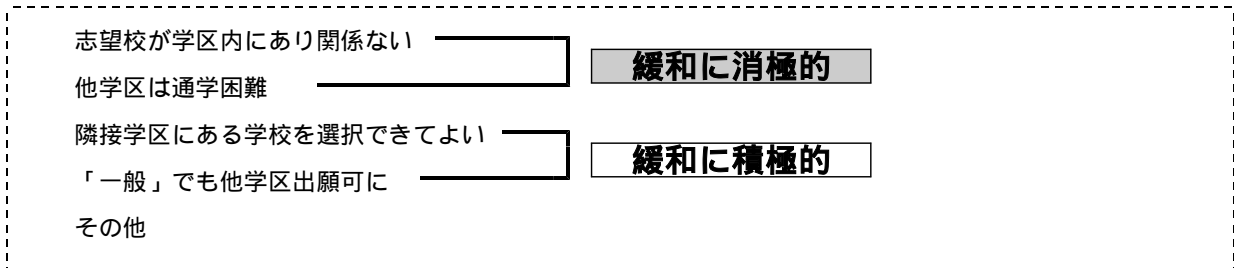
(図12) 募集人員の割合について <アンケート結果より>



(4) 学区のあり方について

(調査結果の概要と分析)

学区のあり方については、調査対象者や地域によって回答の傾向が様々であり、一定の方向性を捉えることは困難である。各調査対象者ごとの結果は以下のとおりである。



高校1年生

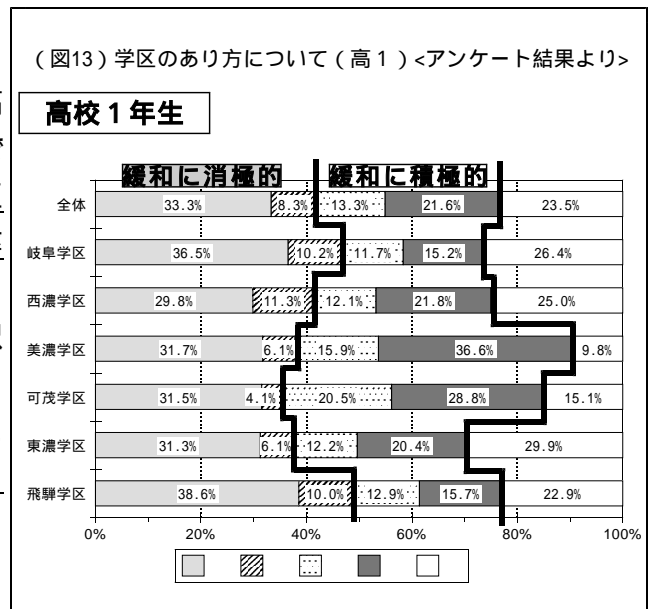
< 全体的傾向 >

「志望校が学区内にあったので関係なかった」と回答した比率が33.3%と最も高く、「他の学区の高校は遠くて通学できないので関係なかった」の8.3%とあわせて、学区については現状維持でよいとする回答の比率の合計は41.6%であった。

また、「『特色化』では隣接学区の学校を選択できてよい」の13.3%と「『一般選抜』で他学区に出願できるとよい」の21.6%とを合わせた「隣接学区」への出願を評価する回答の比率の合計は34.9%であった。

< (図13) 参照 >

(図13) 学区のあり方について (高1) <アンケート結果より>



< 学区別傾向 >

全体的傾向とほぼ同様で、多くの学区で「志望校が学区内にあったので関係なかった」と回答した比率が高かったが、一方で、美濃学区においては、「『一般選抜』でも他学区に出願できるとよい」と回答した比率が36.6%と最も高く、可茂学区においても28.8%と「志望校が学区内にあったので関係なかった」の31.5%とほぼ同じなど、学区によっては緩和に積極的な地域もあった。 < (図13) 参照 >

保護者

< 全体的傾向 >

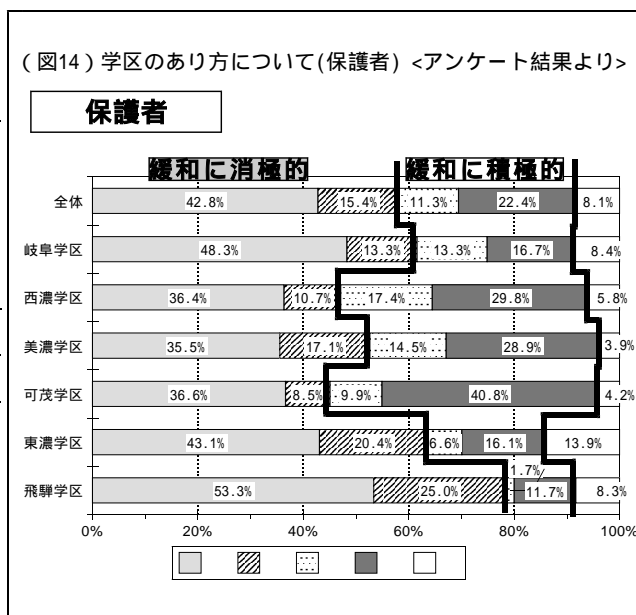
「志望校が学区内にあったので関係なかった」と回答した比率が42.8%と最も高く、「他の学区の高校は遠くて通学できないので関係なかった」の15.4%と合わせて、学区については現状維持でよいとする回答の比率の合計は58.2%であった。 また、「『特色化』では隣接学区の学校を選択できてよい」の11.3%と「『一般選抜』でも他学区に出願できるとよい」の22.4%とを合わせた「隣接学区」への出願を評価する回答の比率の合計は33.7%であった。 < (図14) 参照 >

< 学区別傾向 >

全体的傾向とほぼ同様で、多くの学区で「志望校が学区内にあったので関係なかった」と回答した比率が高かったが、一方で、可茂学区においては、「『一般選抜』でも他学区に出願できるとよい」と回答した比率が40.8%と最も高く、西濃学区や美濃学区においても同様に比率が高い(西濃29.8%・美濃28.9%)など、学区によっては緩和に積極的な地域もあった。

< (図14) 参照 >

(図14) 学区のあり方について(保護者) <アンケート結果より>



現行どおり

特色 6学区 一般 6学区

特色 学区なし 一般 6学区 **一般は6学区**

特色 隣接 一般 隣接

特色 学区なし 一般 隣接

すべて学区なし

その他

緩和に消極的

緩和に積極的

中学校長

< 全体的傾向 >

「現行どおり」と回答した比率が30.1%と最も高く、「特色化・一般とも6学区」の15.0%とを合わせて、全体的に学区の緩和に消極的な回答は45.1%であった。また、「特色:学区なし・一般:6学区」の12.4%も合わせると、一般選抜では6学区維持とする回答が57.5%を占めた。

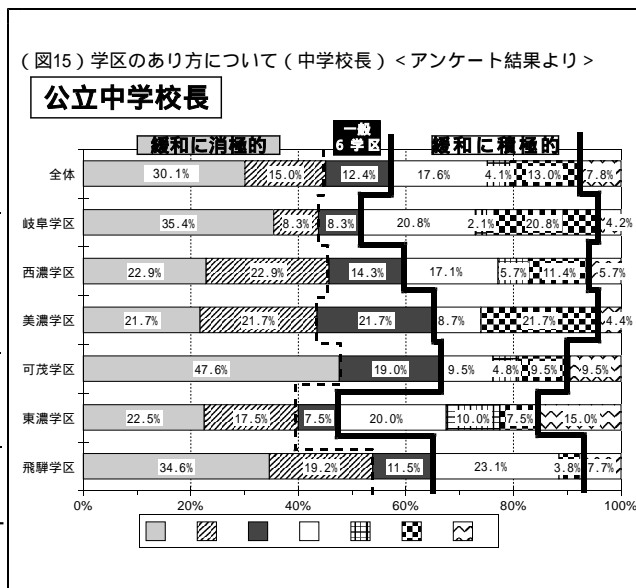
一方、何らかの形で現行よりも学区の緩和を求める回答の比率の合計は34.7% (「特色:隣接・一般:隣接」17.6%、「特色:学区なし・一般:隣接」4.1%、「すべて学区なし」13.0%)であった。 < (図15) 参照 >

< 学区別傾向 >

全体的な傾向とほぼ同様で、多くの学区で「現行どおり」と回答した比率が高かったが、岐阜学区及び東濃学区においては、学区の緩和を求める回答の比率が比較的高かった。

なお、東濃学区では、高校の統合再編により恵那北高校の場所に高校がなくなった場合、加子母や付知地区においては、中津高校よりも、益田清風高校(下呂市)の方が近くなるた

(図15) 学区のあり方について(中学校長) <アンケート結果より>



め、一般選抜においても当該地区からの出願が可能となるよう、通学区域に関する規則の別表第2（第2条関係）の改正（＝調整区域）を望む意見も出ている。（図15）参照＞

高等学校長

< 全体的傾向 >

全日制公立高等学校（66校）

「現行どおり」と回答した比率が43.9%と最も高く、「特色化・一般とも6学区」の9.1%とを合わせて、全体的に学区の緩和に消極的な回答は53.0%であった。また、「特色：学区なし・一般：6学区」の15.2%も合わせると、一般選抜では6学区維持とする回答が68.2%を占めた。

一方、何らかの形で現行よりも学区の緩和を求める回答の比率の合計は28.9%（「特色：隣接・一般：隣接」15.2%、「特色：学区なし・一般：隣接」7.6%、「すべて学区なし」6.1%）であった。（図16）参照＞

学区制対象高等学校（37校）

「現行どおり」と回答した比率が32.4%と最も高く、「特色化・一般とも6学区」の10.8%とを合わせて、全体的に学区の緩和に消極的な回答は43.2%であった。また、「特色：学区なし・一般：6学区」の21.6%も含め、一般選抜では6学区維持とする回答が64.8%を占めた。

一方、何らかの形で現行よりも学区の緩和を求める回答の比率の合計は32.4%（「特色：隣接・一般：隣接」16.2%、「特色：学区なし・一般：隣接」8.1%、「すべて学区なし」8.1%）であった。（図17）参照＞

< 学区別傾向 >

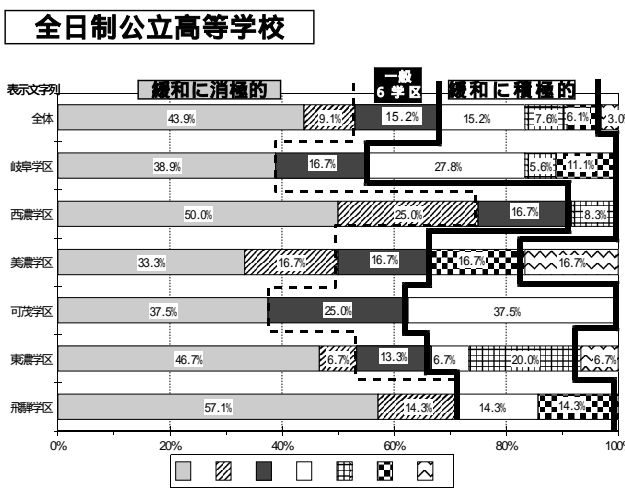
全日制公立高等学校（66校）

全体的な傾向とほぼ同様で、「現行どおり」と回答した比率が高かったが、可茂学区においては、「現行どおり」と「特色：隣接・一般：隣接」が同率であった。（図16）参照＞

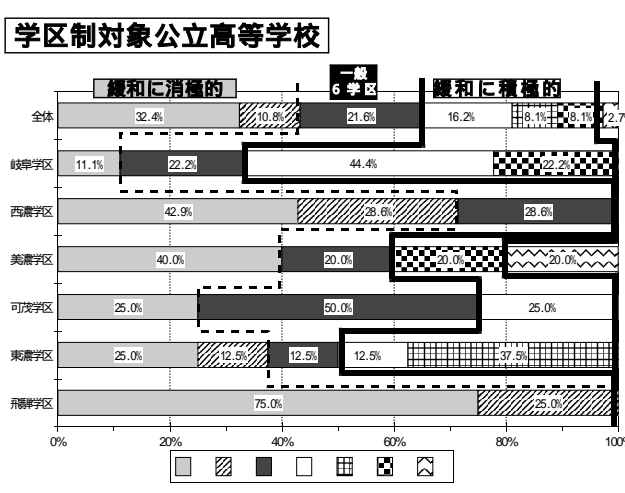
学区制対象高等学校（37校）

岐阜学区では「特色：隣接・一般：隣接」の44.4%、可茂学区では「特色：学区なし・一般：6学区」の50.0%、東濃学区では「特色：学区なし・一般：隣接」37.5%と回答した比率が最も高く、学区ごとの傾向にばらつきがあった。また、西濃学区及び飛騨学区においては、学区の緩和を求める回答はなかった。（図17）参照＞

（図16）学区のあり方について（高等学校長）＜アンケート結果より＞



（図17）学区のあり方について（該当高等学校長）＜アンケート結果より＞



(5) 進路指導・進路選択について

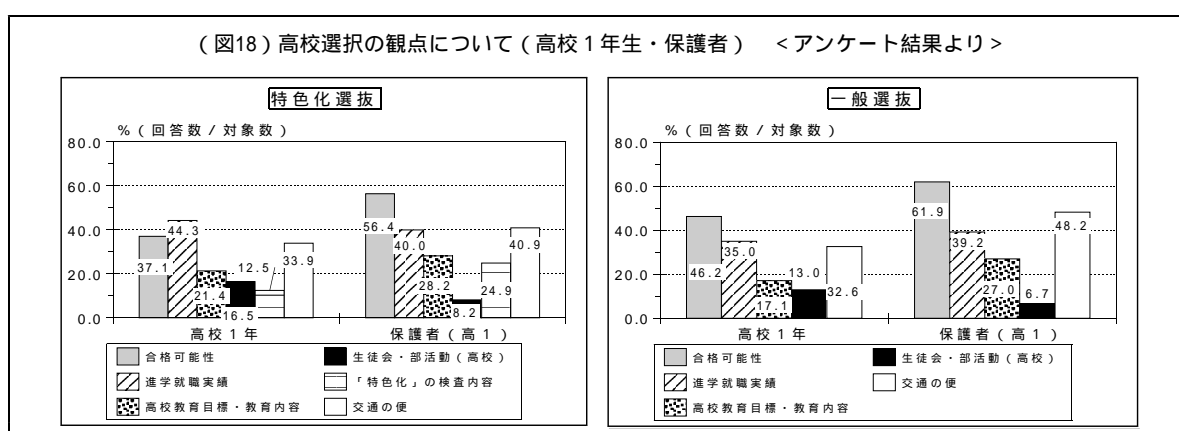
(調査結果の概要と分析)

ア 出願高校選択の観点について

「特色化選抜」では、高校1年生では「大学進学実績や就職実績」との回答が44.3%で最も多く、また、「高校の教育目標・教育内容」21.4%、「高校の生徒会活動・部活動」16.5%などの回答もあり、入学後の自己の生活や進路を視野に入れた高校選択を第一と考えている生徒が多いのに対して、保護者では「合格できるかどうか」との回答が56.4%で最も多い。

「一般選抜」では、高校1年生及び保護者とも「合格できるかどうか」との回答が最も多く（高校1年生46.2%、保護者61.9%）より現実的な観点で出願高校を選択している。

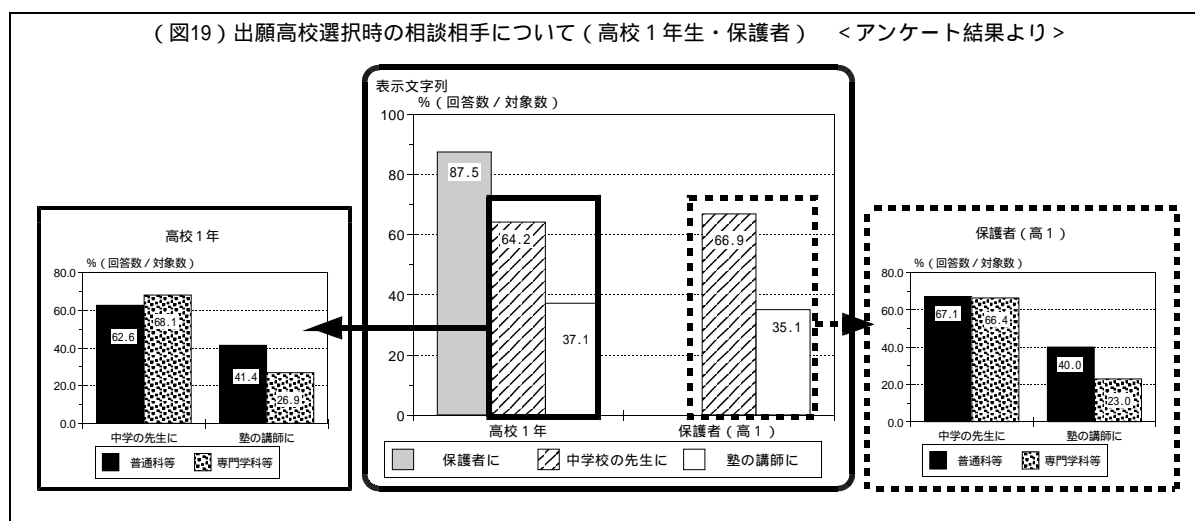
また、いずれの選抜方法・調査対象者においても、「交通の便」との回答が一定の割合を占め、出願高校選択時の重要な観点となっている。< (図18) 参照 >



イ 出願高校選択時の相談相手について

高校1年生及び保護者に共通して多かったのは「中学校の先生」で、高校1年生62.4%、保護者66.9%であり、中学校における進路指導が、受験生やその保護者にとって非常に大きな役割を果たしていることがわかる。

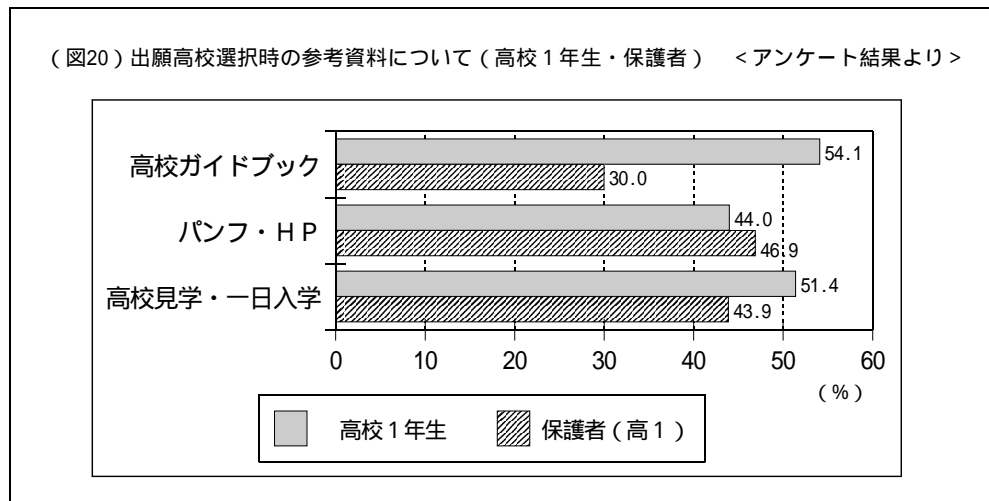
また、学習塾への相談も次いで多く、高校1年生の37.1%、保護者の35.1%が相談相手として回答している。さらに、これを普通科の高校についてみると、高校1年生の41.4%、保護者の40.0%が塾を相談相手として回答しており、中学生の進路選択において、学習塾の影響は大きなものとなっている。< (図19) 参照 >



ウ 出願高校選択時の参考資料について

高校1年生では「高校ガイドブック」54.1%、「高校見学会や一日入学」51.4%、「高校のパンフレットやホームページ」44.0%の順、保護者では「高校のパンフレットやホームページ」46.9%、「高校見学会や一日入学」43.9%、「高校ガイドブック」30.0%の順で回答が多く、各種資料をそれぞれのニーズに合わせて活用している状況がわかる。特に、各高校のホームページや高校見学や一日入学等一層の充実を期待する記述もあり、自分がめざす高校のより具体的な情報を求めていることがわかる。

そのほかにも、学習塾が作成する資料や新聞社が実施する模擬試験の結果等を参考にしたとの意見もあり、数値化されたより客観的な資料も求めている。 < (図20) 参照 >



比率(%)は各項目ごとに小数第2位を四捨五入してあるので、合計が100%にならない場合がある。

(資料1)

公立高等学校入学者選抜に関するアンケート質問事項及び調査結果

比率(%)は各項目ごとに小数第2位を四捨五入してあるので、合計が100%にならない場合がある。

○高校1年生 (17校 1,317人) 学校独自問題について(20校 781人)

1 受験する高校を選ぶとき何を重視しましたか。「特色化選抜」及び「一般選抜」のそれぞれについて教えてください。(複数回答可)

質問項目		回答数1,317	
質問項目	人数	%	
ア 合格できるかどうか	489	37.1	
イ 大学進学実績や就職実績や資格取得実績	583	44.3	
ウ 高校の教育目標・教育内容	282	21.4	
エ 高校の生徒会活動や部活動	217	16.5	
オ 特色化選抜で実施する検査内容	164	12.5	
カ 自宅からの通学距離や交通の便	446	33.9	
キ その他	39	3.0	

質問項目		回答数1,317	
質問項目	人数	%	
ア 合格できるかどうか	609	46.2	
イ 大学進学実績や就職実績や資格取得実績	461	35.0	
ウ 高校の教育目標・教育内容	225	17.1	
エ 高校の生徒会活動や部活動	171	13.0	
オ 自宅からの通学距離や交通の便	430	32.6	
カ その他	25	1.9	

2 あなたは受験する高校を決定するとき、誰に相談しましたか。(複数回答可)

質問項目		回答数1,315	
質問項目	人数	%	
ア 保護者	1,151	87.5	
イ その他の家族(兄弟姉妹や祖父母)	219	16.7	
ウ 中学校の先生	844	64.2	
エ 友人	440	33.5	
オ 先輩	99	7.5	
カ 塾の先生	488	37.1	
キ その他	41	3.1	

3 あなたは受験する高校を選ぶとき、どのような資料等を参考にしましたか。(複数回答可)

質問項目		回答数1,315	
質問項目	人数	%	
ア 公立高校をめざす皆さんへ(県教委発行)	441	33.5	
イ 高校ガイドブック(県教委発行)	712	54.1	
ウ 各高校のパンフレットやホームページ	578	44.0	
エ 高校見学会や一日入学	676	51.4	
オ 進路指導「生きる」(「岐阜県特活進路指導研究会」編集)	242	18.4	
カ その他	73	5.6	

4 「特色化選抜」についてどう思いますか。最も適するものを一つ選んでください。(択一)

回答数1,312

質問項目	人数	%
ア よいと思う	700	53.4
イ あまりよいとは思わない	295	22.5
ウ どちらともいえない	317	24.2

5 上記4で回答した理由についてどう思いますか。(複数回答可)

(「ア よい」と回答)

回答数 700

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	609	87.0
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	177	25.3
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	181	25.9
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	204	29.1
オ 多くの人々が不合格になりあまりよくない	5	0.7
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	7	1.0
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	21	3.0
ク その他	13	1.9

(「イ あまりよくない」と回答)

回答数 295

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	14	4.7
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	3	1.0
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	4	1.4
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	11	3.7
オ 多くの人々が不合格になりあまりよくない	158	53.6
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	119	40.3
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	182	61.7
ク その他	32	10.8

(「ウ どちらともいえない」と回答)

回答数 317

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	187	59.0
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	43	13.6
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	31	9.8
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	44	13.9
オ 多くの人々が不合格になりあまりよくない	89	28.1
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	86	27.1
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	176	55.5
ク その他	10	3.2

6 「特色化選抜」で、あなたが評価してほしいのはどのようなことでしたか。(複数回答可)

回答数1,312

質問項目	人数	%
ア 中学校の学習成績	570	43.4
イ 中学校での生活や出席の状況	565	43.1
ウ 中学校の生徒会活動などの特別活動の状況	374	28.5
エ 中学校の部活動や地域のクラブ等での実績	443	33.8
オ 検定等の取得資格やボランティア活動等の実績	348	26.5
カ 将来の進学や就職に対する意欲	482	36.7
キ 興味・関心のある分野	330	25.2
ク その他	35	2.7

- 7 「特色化選抜」で合格できる人数についてどう思いますか。最も適するものを一つ選んでください。
(択一)

回答数 1,310

質問項目	人数	%
ア 今のままの人数でよい	709	54.1
イ 「特色化選抜」で合格できる人数を増やしてほしい	174	13.3
ウ 「一般選抜」で合格できる人数を増やしてほしい	150	11.5
エ よくわからない	277	21.1

- 8 普通科(コースを含む、単位制を除く)、理数科、英語科を「特色化選抜」で受験した人に聞きます。
「特色化選抜」では他の学区の高校を受験することができます。このことについてどう思いますか。最も
適するものを一つ選んでください。(択一)

回答数 690

質問項目	人数	%
ア 「特色化選抜」では隣接学区にある学校を選択できてよい	92	13.3
イ 「一般選抜」でも他の学区の高校に出願できるとよい	149	21.6
ウ 志望校が学区内にあったので関係なかった	230	33.3
エ 他の学区の学校は遠くて通学できないので関係なかった	57	8.3
オ よくわからない	162	23.5

- 9 「学校独自問題」についてどのように思いますか。(複数回答可)

回答数 781

質問項目	人数	%
ア 難しい問題が多く、実際にできたかどうかわからなかった	502	64.3
イ 中学校で学習した内容では、十分に解答できなかった	242	31.0
ウ 「一般選抜」の学力検査問題とは違い、発展的な力を評価してもらえそうであった	271	34.7
エ 各高校の「特色」そって工夫された出題内容であり、自分の力を発揮できた	73	9.3
オ 「学校独自問題」を受験していない	48	6.1

- 10 中学3年生のとき「学校独自問題」についてどのような対策をたてましたか(複数回答可)

回答数 781

質問項目	人数	%
ア 学校ごとに問題が異なるため、学校ごとに対策をたてなければならず負担であった	69	8.8
イ 試験前に対策をたてようと考えたが、どのようにしていいのかわからず、特別な勉強はしなかった	266	34.1
ウ 中学校で学習する内容を十分に身につけることに努め、「学校独自問題」の特別な勉強はしなかった	246	31.5
エ 各高校のHPに掲載されている過去の独自問題などを参考に自分で対策をたてた	234	30.0
オ 中学校で実施した「特色化選抜」対策の時間を利用した	101	12.9
カ 「学習塾」の特別講座などに通って対策をたてた	218	27.9
キ 「学校独自問題」を受験していないのでわからない	48	6.1

○高校1年生の保護者（17校 1,226人）

- 1 お子さんが受験する高校を決定したときに、保護者として特に大切にしたいことは何ですか。「特色化選抜」及び「一般選抜」のそれぞれについてお答えください。（複数回答可）

（特色化選抜）		回答数1,226	
質問項目	人数	%	
ア 合格できるかどうか	691	56.4	
イ 大学進学実績や就職実績や資格取得実績	490	40.0	
ウ 高校の教育目標・教育内容	346	28.2	
エ 高校の生徒会活動や部活動	100	8.2	
オ 特色化選抜で実施する検査内容	305	24.9	
カ 自宅からの通学距離や交通の便	502	40.9	
キ その他	63	5.1	
（一般選抜）		回答数1,226	
質問項目	人数	%	
ア 合格できるかどうか	759	61.9	
イ 大学進学実績や就職実績や資格取得実績	480	39.2	
ウ 高校の教育目標・教育内容	331	27.0	
エ 高校の生徒会活動や部活動	82	6.7	
オ 自宅からの通学距離や交通の便	591	48.2	
カ その他	51	4.2	

- 2 お子さんが受験する高校を選ぶときに、保護者として誰に相談しましたか。（複数回答可）

		回答数1,226	
質問項目	人数	%	
ア 兄弟姉妹や祖父母等の親族	325	26.5	
イ 中学校の先生	820	66.9	
ウ 知人や友人	267	21.8	
エ 先輩	39	3.2	
オ 塾の先生	430	35.1	
カ その他	101	8.2	

- 3 お子さんが受験する高校を選ぶときに、保護者としてどのような資料等を参考にしてアドバイスをしましたか。（複数回答可）

		回答数1,226	
質問項目	人数	%	
ア 公立高校をめざす皆さんへ（県教委発行）	315	25.7	
イ 高校ガイドブック（県教委発行）	368	30.0	
ウ 各高校のパンフレットやホームページ	575	46.9	
エ 高校見学会や一日入学	538	43.9	
オ 進路指導「生きる」（「岐阜県特活進路指導研究会」編集）	62	5.1	
カ その他	137	11.2	

- 4 「特色化選抜」についてどのようにお考えですか。最も適するもの一つを選んでください。（択一）

		回答数1,212	
質問項目	人数	%	
ア よいと思う	318	26.2	
イ あまりよいとは思わない	511	42.2	
ウ どちらともいえない	383	31.6	

5 上記4で回答した理由についてどのようにお考えですか。(複数回答可)

(「ア よい」と回答)

回答数 318

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	244	76.7
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	81	25.5
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	139	43.7
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	120	37.7
オ 多くの方が不合格になりあまりよくない	5	1.6
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	15	4.7
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	24	7.5
ク その他	5	1.6

(「イ あまりよくない」と回答)

回答数 511

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	15	2.9
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	4	0.8
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	5	1.0
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	15	2.9
オ 多くの方が不合格になりあまりよくない	297	58.1
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	307	60.1
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	343	67.1
ク その他	47	9.2

(「ウ どちらともいえない」と回答)

回答数 383

質問項目	人数	%
ア 受験のチャンスが2回になる	144	37.6
イ 「特色化選抜」では、他の学区の学校を受験できる	71	18.5
ウ 自分の希望に合った学校を選択することができる	64	16.7
エ 「特色化選抜」はペーパーテスト以外の選抜方法に特色がある	51	13.3
オ 多くの方が不合格になりあまりよくない	136	35.5
カ 各高校の「求める生徒像」がわかりにくい	139	36.3
キ 選抜方法が複雑で自分がどのように評価されたのかわかりにくい	253	66.1
ク その他	24	6.3

6 「特色化選抜」で評価してほしいのはどのようなこととお考えですか。(複数回答可)

回答数1,212

質問項目	人数	%
ア 中学校の学習成績	560	46.2
イ 中学校での生活や出席の状況	575	47.4
ウ 中学校の生徒会活動などの特別活動の状況	200	16.5
エ 中学校の部活動や地域のクラブ等での実績	392	32.3
オ 検定等の取得資格やボランティア活動等の実績	215	17.7
カ 将来の進学や就職に対する意欲	564	46.5
キ 興味・関心のある分野	394	32.5
ク その他	53	4.4

7 特色化選抜の募集人員の割合についてどのようにお考えですか。最も適するものを一つ選んでください。(択一)

回答数1,199

質問項目	人数	%
ア 今のままの人数でよい	445	37.1
イ 「特色化選抜」で合格できる人数を増やしてほしい	134	11.2
ウ 「一般選抜」で合格できる人数を増やしてほしい	226	18.8
エ よくわからない	394	32.9

- 8 普通科（コースを含む、単位制を除く）、理数科、英語科を「特色化選抜」で受験した人に聞きます。「特色化選抜」では他の学区の高校を受験することができます。このことについてどのようにお考えですか。最も適するものを一つ選んでください。（択一）

回答数 664

質問項目	人数	%
ア 「特色化選抜」では隣接学区にある学校を選択できてよい	75	11.3
イ 「一般選抜」でも他の学区の高校に出願できるとよい	149	22.4
ウ 志望校が学区内にあったので関係なかった	284	42.8
エ 他の学区の学校は遠くて通学できないので関係なかった	102	15.4
オ よくわからない	54	8.1

○公立高等学校長（全日制課程 66校：県立 64校・市立 2校）

- 1 特色ある学校づくりを進める上で、「公立高校入試改善（平成14年度選抜から実施）」の成果があればご記入ください。（複数回答可）

【全日制課程 66校】

質問項目	校数	%
ア 「求める生徒像」に合致した目的意識の高い生徒の増加	22	33.3
イ 主体的・意欲的な生徒の増加（学習・生活）	19	28.8
ウ 部活動等の活性化	10	15.2
エ 学校の活性化	8	12.1
オ 職員の入試に対する意識向上	6	9.1
カ 進路面での成果大	4	6.1
キ 職員の資質向上（教科指導面等）	4	6.1
ク その他	13	19.7

- 2 特色化選抜の募集人員の割合についてどのようにお考えですか。最も適するものを一つ選んでください。（択一）

【全日制課程 66校】

質問項目	校数	%
ア 募集人員の割合の上限を緩和した方がよい	36	54.5
イ 募集人員の割合の上限も下限も緩和した方がよい	16	24.2
ウ 現行の募集人員の割合でよい	8	12.1
エ その他	6	9.1

- 3 特色化選抜において評価したいのはどのようなことですか。（1校5つまで）

【全日制課程 66校】

質問項目	校数	%
ア 中学校の学習成績	66	100
イ 中学校の部活動や地域のクラブ等での実績	59	89.4
ウ 中学校での生活や出席の状況	49	74.2
エ 中学校の生徒会活動などの特別活動の状況	48	72.7
オ 将来の進学や就職についての意欲	46	69.7
カ 興味・関心のある分野	18	27.3
キ 学科などの適性	18	27.3
ク 検定等の取得資格	12	18.2
ケ ボランティア活動等の実績	8	12.1
コ その他	1	1.5

- 4 普通科（コースを含む、単位制を除く）、理数科、英語科を受験する人は、現在、県内で6つの学区が設定されています（特色化選抜では隣接する学区への出願が可能）が、具体的にどのような学区の設定が適切とお考えですか。（択一）

【全日制課程 66校】

質問項目	校数	%
ア 現行どおり	29	43.9
イ 特色 6学区 一般 6学区	6	9.1
ウ 特色 学区なし 一般 6学区	10	15.2
エ 特色 隣接 一般 隣接	10	15.2
オ 特色 学区なし 一般 隣接	5	7.6
カ すべて学区なし	4	6.1
キ その他	2	3.0

○公立中学校校長（193校）

- 1 「特色化選抜」についてどのようにお考えですか。最も適するものを一つ選んで符号に をつけてください。（択一）

質問項目	校数	%
ア よい	26	13.5
イ あまりよいとは思わない	105	54.4
ウ どちらともいえない	62	32.1

- 2 「特色化選抜」と「一般選抜」の評価尺度・選抜方法等について、どのようにお考えですか。（複数回答可）

（普通科・理数科・英語科の高校について）

質問項目	校数	%
ア 「特色化選抜」では、学校によって選抜方法に特色があり、いろいろな面から評価されるため、生徒それぞれに適した学校を選ぶことができる	10	5.2
イ 評価する観点をさらに明確に示し、それぞれに適した選抜方法を一層工夫してほしい	103	53.4
ウ 「一般選抜」のように、選抜の方法や尺度は全県統一のものでよい	66	34.2
エ 特に「特色化選抜」では、選抜方法や評価尺度が違うので受験生の負担が大きくなった	99	51.3
オ その他	31	16.1

（専門学科・総合学科の高校について）

質問項目	校数	%
ア 「特色化選抜」では、学校によって選抜方法に特色があり、いろいろな面から評価されるため、生徒それぞれに適した学校を選ぶことができる	104	53.9
イ 評価する観点をさらに明確に示し、それぞれに適した選抜方法を一層工夫してほしい	118	61.1
ウ 「一般選抜」のように、選抜の方法や尺度は全県統一のものでよい	10	5.2
エ 特に「特色化選抜」では、選抜方法や評価尺度が違うので受験生の負担が大きくなった	43	22.3
オ その他	11	5.7

- 3 特色化選抜の募集人員の割合についてどのようにお考えですか。最も適するものをそれぞれ一つ選んで符号に をつけてください。（択一）

（普通科・理数科・英語科の高校について）

回答なし = 2校

質問項目	校数	%
ア 現行の募集人員の割合の範囲でよい	33	17.3
イ 現行の募集人員の割合を拡大してほしい	88	46.1
ウ 現行の募集人員の割合を縮小してほしい	8	4.2
エ その他	62	32.5

（専門学科・総合学科の高校について）

回答なし = 1校

質問項目	校数	%
ア 現行の募集人員の割合の範囲でよい	146	76.0
イ 現行の募集人員の割合を拡大してほしい	25	13.0
ウ 現行の募集人員の割合を縮小してほしい	3	1.6
エ その他	18	9.4

- 4 普通科（コースを含む、単位制を除く）、理数科、英語科を受験する人は、現在、県内で6つの学区が設定されています（特色化選抜では隣接する学区への出願が可能）が、今後の学区のあり方としては具体的にどのような学区の設定が適切とお考えですか。（択一）

質問項目	校数	%
ア 現行どおり	58	30.1
イ 特色 6学区 一般 6学区	29	15.0
ウ 特色 学区なし 一般 6学区	24	12.4
エ 特色 隣接 一般 隣接	34	17.6
オ 特色 学区なし 一般 隣接	8	4.1
カ すべて学区なし	25	13.0
キ その他	15	7.8

- 5 県教育委員会では、中学生の進路選択の参考資料として、「公立高校をめざす皆さんへ（冊子）」及び「高校ガイドブック（冊子）」を発行していますが、中学校において、これらの資料をどのように活用されていますか。（複数回答可）

質問項目	校数	%
ア 学級活動で利用	178	92.2
イ 総合的な学習の時間で利用	59	30.6
ウ 個人懇談等で利用	158	81.9
エ その他	27	14.0

- 6 中学校の進路指導において、県教育委員会発行の資料（「公立高校をめざす皆さんへ（冊子）」及び「高校ガイドブック」）以外にどのような資料等を参考にしていますか。（複数回答可）

質問項目	校数	%
ア 各高校の学校案内（パンフレット）	188	97.4
イ 各高校のホームページ	160	82.9
ウ 教育委員会のホームページ	68	35.2
エ 高校見学会や一日入学	186	96.4
オ 進路指導「生きる」（「岐阜県特活進路指導研究会」編集）	163	84.5
カ その他	15	7.8

- 7 平成14年度の入試改善（「特色化選抜」の導入等）により、中学生の学校生活（授業、生徒会活動、部活動等）や進路意識、あるいは、中学校における進路指導に変化がありましたか。（択一）

回答なし = 1校

質問項目	校数	%
ア 変化があった	141	73.4
イ あまり変化がなかった	39	20.3
ウ その他	12	6.3

(資料2)

平成17年度岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会委員名簿

(五十音順 16名)

あんど う せいじ 安藤 征治	岐阜県都市教育長会 会長	岐阜市教育委員会教育長
うめだ あきひろ 梅田 昭博	岐阜県PTA連合会 会長	岐阜市立加納中学校PTA
かさばら たみこ 笠原多見子	岐阜県議会教育警察委員会 委員長	岐阜県議会議員
ごう みねお 郷 峰男	岐阜県高等学校長協会 会長	岐阜県立岐阜高等学校長
ごとうかんばちろう 後藤貫八郎	岐阜県高等学校PTA連合会 会長	岐阜県立岐山高等学校PTA
さくま ともこ 佐久間朋子	岐阜県高等学校長協会 副会長	岐阜県立本巣松陽高等学校長
しまざき よしひろ 嶋崎 吉弘	嶋崎公認会計士事務所 所長	
すぎやま まさひろ 杉山 正裕	岐阜商工信用組合 理事長	
つじ けいいち 辻 慶一	中部事務機株式会社 取締役社長	
とどろき きよし 轟 喜義	岐阜県中学校長会進路指導委員長	岐阜市立長森中学校長
とみた ゆきお 富田 幸雄	私立中学高等学校協会 会長	富田学園 理事長
ふるさわ てつお 古澤 哲男	岐阜県小中学校長会 会長	岐阜市立加納中学校長
ふるた よしのり 古田 善伯	岐阜大学教育学部 学部長	
ほり きみこ 堀 貴美子	大垣桜高等学校PTA 会長	
ほんだ のぶや 本田 修也	中部学院大学 教務部長	
やまだ ひろこ 山田 弘子	前可茂教育振興事務所長	

